

中柱座手一分銀に関する一考察

細川 一彦

数ある中柱座手一分銀の中で、表面書体が中柱座一分銀と同一書体で裏面書体が非中柱座の安政手中柱座一分銀として、A b、B a、B c、C b、C d、G a、G dがあり、裏面逆桜はa、dの四種類が確認されています。

しかしながら、安政手中柱座一分銀において、裏面逆桜がfのものは、これまで確認されていませんでした。

今回紹介します写真①に示す安政手中柱座一分銀D f型は、表面の書体が写真②に示す中柱座一分銀D d型と同一であり、裏面逆桜がfの非中柱座のものです。なお、定極印も写真②に示す中柱座一分銀D d型と同一のBタイプで重量は九・三七グラムの過重品です。

これまで、表面の書体が中柱座一分銀とは異なり中柱座手一分銀をなす安政手中柱座手一分銀において

は、裏面逆桜がfの非中柱座品としてB f、C f、F f、G f型等各種の型が既に確認されています。

さらに、裏面逆桜がfの非中柱座品であり明治一分銀に分類されている写真③のH fも中柱座手一分銀として確認されています。

そこで、これらの裏面f型の非中柱座品について、裏面書体を主に、今回の安政手中柱座一分銀D f型（以下本品D f型と記す）との比較を行いました。

この結果、写真①の本品D f型の裏面fの書体は明らかに写真③の明治一分銀H fの裏面fの書体と完全に一致していることが確認できました。

一方、上記の安政手中柱座手一分銀の一つである写真④のF f型を例に、本品D f型との裏面書体の比較も行いました。

この結果、写真①の本品D f型の裏面fの書体は写真④のF f型の裏

面書体とはかなり相違していることが確認できました。

つまり、明らかな相違点として、写真①の本品D f型や写真③の明治一分銀H f型は是字がハネ是であるのに対して、写真④の安政手中柱座手F f型はハネ是ではありません。

なお、ここでは、安政手中柱座手G fについては写真を掲載しませんでした。上記のF f型同様ハネ是ではありません。

さらに、別途調査したところ、上記の安政手中柱座手一分銀B f、C fの裏面f書体は本品D f型と同一書体のハネ是であることが判明しました。

また、安政手中柱座手一分銀G fにおいては、非ハネ是品だけでなく本品D f型と同一書体のハネ是も存在することが判明しました。

これらのことから、中柱座手一分銀である、裏面fの安政手中柱座一分銀、安政手中柱座手一分銀、明治

一分銀にはハネ是と非ハネ是の二種類の裏面f書体が存在することが確認できました。

なお、二種類の裏面f書体の是字以外の相違点については、多々有りますので、この点に関しては、表1の裏面f書体比較表を参照ください。

以上、中柱座手一分銀における裏面f型の非中柱座品について、書体の相違を主に説明をしました。

次に、中柱座手一分銀の中で裏面がハネ是である非中柱座品については、個人的に興味深い点がありましてので私見を述べさせていただきます。

それは、参考資料2に掲載された写真⑤に示す明治一分銀E iと表面書体が同一の安政手E bです。

写真から分かるように、裏面b書体がハネ是であって本品D f型や上記のハネ是fの安政手中柱座手一分銀、明治一分銀H fにかなり類似した書体となっています。

しかし、細部まで細かく比較すると、安政手E bではハネ是のハネが弱く水平に近い点、銀字最終画が平尾となっている点、座字や是字の書体が斜字体でない点等、細かな相違点があります。

現在この書体のハネ是は安政手E b 1種類のみですが、私は上記の安政手E b以外の安政手或いは明治手で裏面がE bと同一書体の未発見のハネ是非中柱座品がまだまだ存在するのではないかと思っています。

なお、中柱座手一分銀の中で、裏面逆桜がf以外のハネ是である非中柱座品については、安政手中柱座一分銀A b、C b、安政手中柱座手一分銀B b、F b等、裏面b型のものが知られていますが、これらは、全て、あき座、閉じ常であって、本品D f型や明治一分銀H fの裏面書体とは大きな差異があり、安政手E bとの関連性も低いものと考えます。

以上、中柱座手一分銀の中で安政手中柱座一分銀D f型の書体比較を中心に説明するとともに、ハネ是の中柱座手一分銀についても私見を述べさせて頂きましたが、本記事に関して皆様のご意見をお待ちしています。



写真①安政手中柱座 Df



写真②中柱座 Dd



写真③明治 H f



写真④中柱座手 F f



写真⑤安政手 Eb



表 1 (裏面 f 書体比較)

種類	安政手中柱座 (本品)Df(写真1) 明治一分銀 H f (写真3) 安政手中柱座手 Bf,Cf, Gf (ハネ是)	安政手中柱座手 Ff (写真4) 安政手中柱座手 Gf (非ハネ是)
銀	へ山あき良 × 銀であるが6画が斜点で7画は横点、4画横棒は短かく打込み無く、8画横棒に小さな打込有	へ山あき良 × 銀であるが6画、7画とも斜点、4画横棒は長く大きな打込みが有り、8画横棒にも大きな打込有
座	4画スの打込み小さい 8画土の打込み小さい	4画スの打込み大きい 8画土の打込み大きく上向き
常	上下2あき常であるが、口字が大きい	上下2あき常であるが、口字が小さい
是	最終画の足がハネる	最終画の足はハネない

◎参考資料

- 1、『新・一分銀分類譜』(浅井晋吾編、二〇〇三年、書信館出版)
- 2、『中柱座系一分銀とその仲間たち』『収集』二〇〇六年十月号。